

# 診療最前線

## 小児科（前編）



小児科部長  
池野 一秀

**不定愁訴の原因を明らかにする  
24時間自律神経バランス検査**

### “春の女神症候群”

5月の連休が終わり、梅雨入りのシーズンを迎えると、頭痛・めまいや腹痛・嘔気、眠気、息さ、不眠など様々な不定愁訴を訴える子どもが増えます。こうした症状の子どもたちに対しても、以前は起立試験と呼ばれる検査を行い、起立性調節障害といふ診断で昇圧剤などが処方されしていました。しかし、なかなか症状は改善せず、体調不良を抱えたまま夏休みまで切ない日々を送る場合が多くたのでないかと想像します。こうして

### 自律神経とは

自律神経は、我々が意識しないでも体温や血圧、循環や呼吸、

くても活動するときに必要な恒常性（ホメオスタシス）を保つために働いています。大きく二つに分けます。交感神経は、目覚めて活動するときに働き、緊張すると活動がより活発になります。

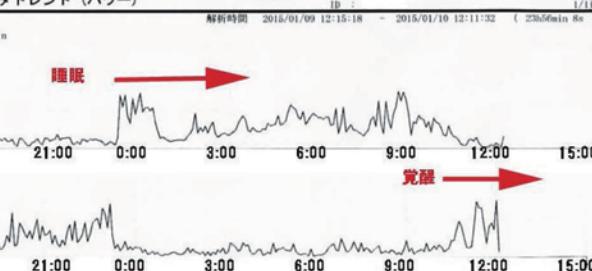


図1 24時間の自律神経活動の変化

一方、副交感神経は、睡眠時に働く、体を休め、消化吸収を活発にします。自動車の運転でいえば、動いているときに踏む

実際の検査結果を見てみましょう。解析結果のうちHF（高頻度）成分が、副交感神経の活動を示します。交感神経は、便意的にLF（低頻度）/HFの比で表されます。図1は、比較的正常に近いグラフです。夜の12時前に副交感神経のHF成分の活動が高くなり、ちょっと寝坊気味ですが午前9時くらいに低下します。それと入れ替わりに交感神経を反映するLF/HFの活動が上がり、夜の12時前には低下します。こうした規則正しい自律神経活動の繰り返しにより、健康的な日常生活が保てるのです。逆に自律神経のリズムの乱れにより、様々な症状が出現します。次回は、そうした異常について詳しくお話ししま

消化や代謝、睡眠、覚醒を調節し、生きていくのに必要な恒常性（ホメオスタシス）を保つために働いています。交感神経と副交感神経があります。交感神経は、目覚めて活動するときに働き、緊張するときには、アクセルとブレーキどちらだけに偏ったり、使うタイミングが悪いと事故や故障の原因になります。

### 24時間自律神経活動グラフ

アクセルが交感神経で、止まる時に使うブレーキが副交感神経と考えればわかりやすいかもしれません。自動車の運転でもそうですが、アクセルとブレーキが、一方だけに偏ったり、使うタイミングが悪いと事故や故障の原因になります。